

大雪

jj1guw

2005年12月4日の大雪は実に50年ぶりだそうです。例年は雪などほとんど降らない地方なので、TVや新聞の話題は大雪一色になっていました。

12月4日、朝目覚めたらやけに静か？ この雰囲気は岩手の一関市実家と同じ雰囲気。

窓を開けると下界に深々と降り注ぐ軽雪。もう既に積もっている。風に舞い上がり、上方向に雪が降る。まさしく7エリア実家の風景だ。。。

幹線道路では大勢の人が雪かきをしているが、雪は積もる一方で一向に減らない。タクシーを含む車の状態はいたって危険！ 普段から降雪がないため、ノーマル状態での走行。

坂が多い地方なので、坂道の上方からズルズル落ちてくる車や衝突している車がある。

お国が違えば習慣が違うのは理解できるが、チェーンくらいは使用して欲しい。飛行機の時間が有るので余裕をみて出発したが、いつもの倍以上の時間が掛かった。空港出発ロビーで案内を待つこと1時間、上空に飛行機が到着しているが着陸準備が出来ていないため旋回させている状況のアナウンスが流れている。

さらに1時間後、欠航のアナウンスが流れる。。。。。。

この空港は空軍が使用している空港なのでまさか欠航とは。空港が面した海には話題(中国初のロシア製空母)の空母も停泊しているらしいが、当然見えない。雰囲氣的には石川県の小松空港のような感じ(ここも自衛隊が使用していた気が。。)

夕方には雪が止み一斉に雪かき大会！ 幹線道路全てに要員を配置し雪をトラックに積み込んでいる。さすが人口13億人(15億は越えているらしい)、軍が使用していることも有るのか一晩で何もなかったように空港、幹線道路から雪が取り除かれたのには驚いた。

ついでに中国でのタクシー事情を簡単に報告しますと、乗車するときには基本的に運転手の隣に乗車する。これには「道案内に乗車した人間がする」

→ 遠回りされないように監視する

2人で乗車する場合も、1人が前に乗る習慣が有るようです。

乗車中にも「相乗り」が普通に行われる。具体的には1人で乗車中に、普通に道で手を挙げている(乗車したい人)人を乗せる。その場合の料金は運転手と客の交渉で決める。

→ 乗車している人は少し安い料金になる。運転手はメータ差額分が自分の純利益になるこんなルールのようなようです。特にタクシーの少ない状況(深夜、降雪など)では、お客も運転手も積極的にこのルールを採用しています。

最初は馴染めませんでしたでしたが自分が相乗りの後乗りをする立場になるとありがたいと感じました。夜に幹線道路をタクシーを探して歩いているときに、このようなタクシーが近寄ってきてくれることはありがたいと思います(気温マイナスでタクシー待ちは厳しい)